

令和 2 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500360		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホームえんじゅの里		
所在地	〒023-0841 岩手県奥州市水沢真城字杉ノ下131番地		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和3年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者様の身体・精神等の状態を把握し、他利用者様と安心して一緒に生活して頂けるように介護・支援している。今年新型コロナウイルス感染防止のため面会制限を実施し家族様の協力を頂いている。オンライン面会の環境を整え家族様に報告している。利用者様に寂しい思いをさせないように、わんこそうめん大会やBBQ、ドライブ等に出掛け交流を図っている。施設の畑で野菜を作り、収穫の喜びを分かち合っている。又、交流のある小学校の皆さんより「コロナに負けるな」メッセージを頂き、お礼に利用者様手縫いの雑巾を渡し交流を深めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、東北本線陸中折居駅に程近い田園地帯にあって、大型の産直を核施設とする自然に恵まれた環境に位置している。法人では特養、ショートステイ、居宅介護支援、グループホームを運営しており、職員及び各種行事などで緊密な連携の下で運営されている。利用者の支援に当たっては、思いをくみ取り、自宅で生活している時のような生活リズムを大切にしたい心地よさが持てるように工夫がなされている。また、資格取得への支援、内部研修の定期的な開催を通じ、職員の資質向上に努めている。現在、新型コロナウイルスの影響で休止している運営推進会議では、従前から利用者、家族のほか、市職員、地区住民等との情報収集や意見交換を行い、地域との密接な係わりを形成しながら、介護の質の向上に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で話し合いを持ち「私たちの理念」の内容を見直し、利用者様が「ほっ」と出来る生活が送れるよう取り組んでいる。	1年前に職員全員で理念を作り直し、これまでの五つの項目を三つに絞って分かり易く整理している。事務室に理念を掲示し、また、職員会議で理念について確認しながら、利用者の希望や思いを実現できるよう、日々の介護支援に活かした取り組みに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止のため、地域との交流は出来なかったが、地域の方々からの野菜の差し入れや、小学校からの「コロナで負けないように」メッセージを受け取りお礼に利用者様手縫いの雑巾を渡すなどして交流を深めている。	地域の公民館事業で開催する収穫祭に参加し、時には、地域住民の方が様子伺いに来所したり、季節毎にカボチャ等の野菜の差し入れをいただいている。近くの小学校の児童から「コロナに負けないように」とのメッセージをいただき、お返しに利用者が手縫いした雑巾を贈るなど、コロナ禍にあっても、工夫しながら地域との交流を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談を受けた場合は、認知症の症状やそれについての適切な支援を説明出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止のため、運営推進委員の方々にホームでの活動を理解していただけるよう、入居者様状況・行事写真・広報等を郵送してサービスの向上に努めている。又、委員様より情報をいただいて田植え等の見学に出掛けている。	新型コロナウイルスの影響で4月以降は2か月に1回の書面会議とし、広報誌に併せ、事業所の運営活動状況、コロナ禍への取り組み等をお送りし、委員からは、災害時の避難先などに関するアドバイスをいただいている。	運営推進会議の議題に、リスクマネジメントの一環としてヒヤリハットや事故報告の概要と対応状況を取り上げ、委員からの率直な意見等をいただくことにより、介護の振り返りの機会とされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に書類等を郵送し事業所や利用者様の情報を伝えている。又、認定申請時や加算等についての相談・助言をいただいている。	市の長寿社会課とは、要介護認定申請や介護保険制度適用等の不明な点を照会し、様々な相談も持ち掛け助言をいただいている。コロナウイルス関連で、マスクや消毒液などの配布も受けている。毎年開催される介護保険の集団指導にも参加している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止委員会を3ヶ月に一回開催し参加している。情報を職員間で共有し身体拘束をしないケアに努めている。又、事業所内の職員会議で身体拘束廃止についての話し合いを持っている。	法人として、身体拘束廃止の指針を作成しているほか、3カ月に1回開催される法人主催の身体拘束廃止委員会に参加し、事業所に持ち帰って復命研修を実施し職員間で共有している。毎月の事業所の職員会議では、事業所で作成した「身体拘束の廃止」に関する8項目を職員同士で確認している。スピーチロック防止のため、管理者は、確認の都度職員を指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会に参加することで、虐待行為と身体拘束が共通していることを確認し共に防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に参加し、権利擁護に関する制度の理解に努め、利用者様が活躍出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には入居後の生活についての不安軽減のために、本人・家族様に要望・意見を伺い十分な説明話し合いを行うことで理解、納得して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お手紙や家族様来所時に利用者様の状況を報告し意見・要望を伺うようにしている。利用者様や家族様からの意見・要望にすぐに対応し連絡を密にしている。苦情解決責任者、苦情受付担当者及び第三者委員を設置し苦情解決及びサービスの質の向上に努めている。	利用者との日々の会話から聴き取り、雑巾づくりなどとして介護に反映させている。また、毎月、利用者の状況を手書きで整理したお手紙を家族等に郵送しながら要望等を聴いたり、また、玄関に意見箱を設置して意見要望を投函していただき、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で、職員の提案を行事に反映させている事を報告している。又、法人の職員アンケートや個々の話し合いにより業務への要望や提言を聞き取りしている。	毎月開催する職員会議や、毎朝の申し送り時のミーティングでの職員の意見を介護に反映しているほか、年度末に実施する職員アンケートを通じ、今後の希望や介護資格の取得意向などを把握している。初任者研修や実践者研修などの資格取得に対しては、法人として研修費用等を助成している。	

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるように資格所持の助成金制度を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の年間計画を立て、職員の知識・技術向上に向け取り組んでいる。又、職場で働きながら資格取得出来るように個々に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアカフェに参加して、情報交換や交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時、本人、家族様の要望や不安なことを聞き、職員間で話し合い、本人が安心して住みやすい環境、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前及びその後の面談の中で家族様の話をよく聞かせていただき、その人にあったサービスを提供し、不安の解消や要望等に耳を傾けながら良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの対応が困難な場合が発生した時には、本人、家族様の理解を得た上で他のサービスの利用を含めた対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に掃除、洗濯干し、たたみ方、茶碗拭き、収穫等、個々の利用者様が出来ることをしていただき、お互いのコミュニケーションを取りながら信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面談や行事参加等は、新型コロナウイルス感染防止で制限されているため、広報誌やお手紙等にて利用者様の様子を伝え、家族様との絆を大切にしながら、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響で制限はあるが、外出で馴染みの場所をドライブしている。	利用者の馴染みの関係は、入居時の家族からの情報や入居後の日々の会話から、その都度記録し、関係が継続できるよう職員間で共有している。馴染みの美容室を定期的にご利用したり、ドライブで思い出の場所等を巡っているが、年々、高齢化により同世代の馴染みの方との交流が減少する傾向にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握し、下膳の出来ない方の下膳をしたり、支え合いの様子が見られる。職員も間に関わることでその場合その場の雰囲気づくりを行っている。気の合う利用者同士で会話を持つ等で関係を保っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービスを提供出来ない時などには、面会に行き、経過の情報を得てその後の支援に役立てている。他施設に移っても、連絡・相談を取り合い、本人が望む生活を応援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動、行動、表情を観察し、本人の思いや希望を把握出来るよう努めている。又、家族様の希望に寄り添った支援をしている。	毎日10時のコーヒーの時間を利用し、利用者の気分がほぐれた頃を見計らって、会話の中から本人の思いや意向を受け止め、希望に叶えるよう努めている。高齢化により本人からの申し出が少なくなってきたが、希望に沿って、お寿司や刺身、定期的な焼肉の提供、或いは、食事時のテーブル拭きや食器拭き、床掃除のお手伝いなど、可能な限り本人の意向を反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話を多く持ち、できるだけ本人から聞き取りを行うと共に、家族様からも情報収集をしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースで生活できるよう、業務日誌、申し送りを通じて状態を把握するとともに、日々の生活に役割を持って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議のほか、毎日の申し送りで現状に合った支援をしている。利用者様の状態により、計画の見直し、本人、家族様の意見・要望を聞き介護計画に反映している。	介護プランは、長期目標を1年、短期目標を3ヵ月とし、毎月のモニタリングは介護支援専門員が行なっている。本人に状態変化があった場合には、その都度計画を見直している。日々、細やかな支援がなされるよう、利用者やご家族から小まめに聴き取りして介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人ファイルにて、職員の統一したケアを心掛けている。職員会議時に日常生活の変化等を職員間で話し合い、計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況を確認しながら、その方に合ったサービスを提供できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌や新聞等で近隣の情報収集し、利用者様同士で話しをして楽しんだり、職員が間に入り支援できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も継続してかかりつけ医に家族様の協力を得ながら定期受診している。又、通院時には日々の様子や体調の変化の有無を伝え連携を図っている。家族様が契約でシルバー人材センターに同行をお願いしたり、家族様が都合が悪い時はホームで対応している。	希望するかかりつけ医へは、基本、家族やシルバー人材センターの協力で定期的に通院している。受診する際は、本人の状態を記載した健康管理簿等を持参し、医師に情報を提供している。利用者の健康状態に異変が生じた際には、法人の看護師に連絡して助言を得るなど、連携して対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調を細かく観察し、体調の変化時には、看護師に様子や状態を報告し指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、利用者様の情報の提供を行なっている。又、面会時には、病院より経過情報を伺い、退院後のホームでの生活が継続出来るよう計画に生かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針や看取りに関する指針を入居時に家族様に説明している。重度化した場合は、改めて家族様に事業所で出来ることを十分に説明し話し合いを行うことで支援している。	入居時に本人・家族に対し、重症化した場合の対応指針に沿って説明し、同意を得ている。体調の変化に応じ、利用者や家族が満足できるような対応に努めている。事業所での看取り実績はないが、法人内の他事業所での看取り経験を有する職員が配置されており、今後、対応は可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	突然の急変や事故に備え、定期的に普通救命講習で心肺蘇生法やAEDを学び訓練している。又、職員が応急手当普及員の資格を取得し救命サポートステーションになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと、年2回、昼・夜を想定した火災避難訓練・通報訓練を行なっている。近隣住民の方に協力を依頼している。非常用備品も用意している。又、夜間時の停電に備え発電機の使用訓練を行なっている。	市のハザードマップでは、水害等の指定区域には指定されていない。消防署や近隣住民の協力を得て、年2回の避難訓練を実施している。避難場所には、南中学校や真城地区センターが指定されている。地区の防災会議に参画しているが、今年度はコロナウイルスの影響で会議自体が中止となっている。非常食、ガソリン、発電機、ガスコンロ等を備蓄している。3人の職員が近隣に居住し、数分で駆けつけることが可能な体制となっている。	職員、近隣住民或いは一部利用者を交えながら、夕刻又は夜間の避難訓練を実施することにより、暗闇で行動する困難さや課題を把握し、併せて、近隣住民との役割分担を工夫することにより、災害対応の一層の充実を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴・性格等を配慮しつつ不安を抱かせないように、一人一人の心情に合った声かけを行っている。個人情報プライバシー保護に注意しつつ、記録等の取り扱いには細心の注意を払っている。	利用契約時に個人情報の取り扱いについて本人、家族に説明し、同意を得ている。普段から職員全体で、利用者本人のプライドを傷つけないような対応に努めている。利用者個々のプライバシーに配慮するため、居室の出入り口にのれんを下げているほか、入浴やトイレ介助に異性の職員が従事する際にもプライバシーが保たれるよう工夫している。個人情報を記載したファイル等は、施錠できるキャビネットに保管管理するなど、細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様と会話の中から希望や思い等を受け止め、日常生活の中で様々なことを決めることが出来るサポートを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が家と同じような環境で暮らせるよう、ご自宅で使用していたタンスや身の回りの物に囲まれ、自分のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様希望の理容組合の利用や、季節に合った服装に考慮し、ご本人様が出来ない所は一緒に行なって支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜を調理し、季節を感じ楽しめる料理を提供している。利用者様と職員が同じテーブルで会話をしながら楽しい食事をとっている。苦手な食材のある方には代替品を提供している。食事後は利用者様と一緒に下膳や食器拭きの手伝いを行っている。	食事メニューはその日の買い物をしながら、利用者の意見を取り入れて決定している。食事前のテーブル拭きや食後の片づけを行ってもらうことで、利用者に役割を持っていただき、本人の意欲向上に繋げている。利用者の希望により、産直レストランでの食事や行事弁当の提供、事業所内での回転寿司の企画と、利用者の食欲が湧く工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の嗜好を把握し栄養バランスを考えた食事を提供している。又、水分摂取時も個人差があるため、水分チェック表を使用し個々にあった水分量の確保に努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声がけにて口腔ケアを行っている。一人で難しい方には介助にて清潔保持に努めている。就寝時には、洗浄剤を使用する支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合った声がけと誘導を行ない排泄チェック表を利用して排泄の失敗を軽減している。歩行困難な方には、定期的なトイレ誘導や排泄のサインを見逃さないように努めている。	現在、4名が自立し、5名がリハビリパンツを使用しており、居室でのポータブルトイレ利用者は夜間のみが2名となっている。排泄チェック表を活用しながら、個々の排泄パターンを把握し、必要に応じてトイレ誘導や見守りを実施している。日中は、9名全員について、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューを工夫し、出来るだけ野菜を多く摂取していただけるよう工夫している。又、牛乳やヨーグルト等の乳製品を毎日提供している。排泄チェック表を活用し、下剤で便秘対策も行っている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉の雰囲気が出るように風呂場に温泉暖簾を掛けている。その日の体調を把握し、希望の湯温に調整しながらご本人様が安心し、ゆっくり落ち着いて入浴していただけるような時間を提供している。又、入浴を楽しめるように入浴剤を使用している。	入浴は週に3回、午後2時から4時を目途として本人の清潔保持に努めている。入浴を嫌がる利用者には、時間を調整するなど、工夫しながら入浴を勧めている。数種類の入浴剤を使用したり、浴室入口に温泉暖簾を掲げるなど、風呂場の雰囲気を盛り上げ、入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を把握し、それぞれの生活リズムで無理のないように安心して過ごしていただけるように心掛けている。又、寝具はこまめに交換し、清潔保持を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方の変更があった場合は職員間での申し送りを徹底し、服用後の副作用や様子変化等に注意している。又、飲み忘れがないようにダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの力を活かし洗濯物干し、たたみ方、モップ掛け、茶碗拭き等自分のペースで続けられるように支援している。月の行事にイベントを設けたり、ドライブ等での気分転換を行っている。		

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止のため人混みへの外出を自粛していただいている為、車から降りずに近場へのドライブをしたり、施設の周りを散歩している。又、屋内での行事を行なっている。	これまで隣の法人施設に外出して舞踊、歌謡ショー、芝居を定期的に楽しんだり、花見、紅葉狩りのドライブに出掛け、産直祭りにも参加していた。コロナ禍のため、今年は、車の外に出ないドライブ、近隣で行われる小学生の稲刈り見物に代え、また、事業所の玄関先にあるスロープで、外気浴をしながら季節を肌で感じ取れるようにするなど、利用者の気分転換に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様や利用者様本人からお金を預かっている方もいる。必要な物や欲しい物がある時は、職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様・知人からの電話は取次をしている。携帯を持参している方もいる。毎年直筆の年賀状を家族様に郵送している。又、家族様から手紙が届いて渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは吹き抜け造りになっている。新しくエアコンを設置し温度調整をしている。窓を開けこまめに換気をしている。各行事の写真や季節に合った飾りを吊るしたり、季節を感じていただけるような工夫をしている。	ホールは、天窓から太陽光が差し込んでいる。壁面には、各種行事の写真が貼り付けられ、外気浴が出来るテラスは、焼肉などの行事を楽しめる場所にもなっている。3人掛けのソファやダイニングテーブルと椅子が利用者の人数分用意され、生活しやすい環境が整っている。エアコン、床暖房で室温を調整し、加湿器、空気清浄機も設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は気の合った方が同士が気軽に会話出来るように配慮している。テレビの前にソファを置きくつろいで観覧出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にテレビやダンス等それぞれ必要な物を家族様に持って来て頂き、利用者様が落ち着いて休める空間作りをしている。居室の出入口には、暖簾をかけてプライバシーを守っている。	居室には、介護ベッド、備え付けのクローゼット、洗面台が設置され、暖房は床暖房となっている。テレビ、椅子、衣装ケース、中には家族の位牌が持ち込まれ、それぞれにカレンダーや写真も掲示してある。室内の掃除は本人と一緒に職員が行い、清潔に保たれている。居室入り口には暖簾を下げてプライバシーを保護している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器や押し車等、安全に通れる様にテーブル等の配置を考えて通路を広くしている。又、自分居室がわからない利用者様にはドアに名前を提示して迷わないように配慮している。		